令和元年度第２回宝塚市パブリック・コメント審議会議事録

１　開催日　　令和元年１０月２日（水）午前１０時００分～１１時５０分

２　開催場所　宝塚市役所３階　特別会議室

３　出席者　　委員８名、事務局３名、傍聴人１名

４　議事　　　平成３０年度に実施したパブリック・コメント手続きの個別評価（案件No.1～4）について

○事務局　　　　　　ただ今より、令和元年度第２回パブリック・コメント審議会を開催する。本日の出席者は委員８名中８名で全員出席となり審議会は成立。なお、傍聴者は１名である。

○会長　　　　　　　それでは議事に入る。（平成30年度に実施したパブリック・コメント手続き）１１件について総合評価表に各委員に評価していただいた。それを事務局にとりまとめていただいた。その資料をもとに本日、今月２９日、来月１１日の３回に分けて評価をしていく。

　　　　　　　　　　まず事務局から資料についての説明をお願いする。

○事務局　　　　　　資料１、２について説明。

○会長　　　　　　　本日はNo.1～4について評価する。まず、１つ目の案件である「宝塚市子どもの読書活動推進計画（第３期）（案）」について、各委員から意見を伺いたうえで、評価を最終的に決めていく。資料1-1について、各委員の評価をまとめていただいているが、変更があった場合は随時修正し最終評価をする。

○委員　　　　　　　評価Ｅ。よくわからなかったので、点数は辛い。一番気になったのは資料１にある「他の目的には一切使用しません」を誤入力されている。読み直しや見直しが必要ではないか。

○委員　　　　　　　評価Ａ。入力ミスはわかっていた。「みんなで支える子どもの読書」もう少し子供や若いお母さんが関心を持てるようなキャッチコピー等の工夫が必要である。

○委員　　　　　　　評価Ｃ。全体的に納得できるかという点と、分かりやすい内容であるかの視点で評価をした。とりあげている内容としては良い。１５人の方が３９件の意見を出しており、その中でも５件を修正しており、真摯に意見を受け止めている点が非常に良い。課題としては関係部署間の連携である。それぞれの活動のつながりというものが、この資料の中では弱い。各部署でこういう活動を行っているというのはわかるが、項目ごとに整理するともっと分かりやすい。

○委員　　　　　　　評価Ｂ。資料1-2にある「市民からのビブリオバトル～」。重点項目なのに１５ページに急に「ビブリオバトル等の事業を企画・実施します」と書かれている。そもそもビブリオバトルとは何か。市民にこの言葉が浸透していない。脚注を入れるなど説明が必要ではないか。言葉やイベント内容の説明を入れた方がいい。

○委員　　　　　　　評価Ｂ。結果公表で、今も支援しているのに「これから支援していきます」と書かれている。「努めてまいります」「努力してまいります」等の抽象的な回答なので、市民としては「やってもらえない」と思ってしまう。内容や期間などを具体的に記載して欲しい。全体的によくまとまっていて良い。

○委員　　　　　　　読書のような、市民に関することは行政としては期限を決めるということを書くのは難しい。また、内容についてはこの審議会では議論をしない。

○委員　　　　　　　評価Ｂ。意見が一番多く中身も濃い。専門家の意見も一般的な意見も出ている。ただ、他市と比較して図書館が少ない、また、本が置かれている場所が児童館や学校など、それぞれが連携していないという構造的な問題もある。そういう問題を説明したうえで意見をもらうというのも大事ではないか。

○委員　　　　　　　評価Ｂ。資料1-2の最初に書いたが、前計画を更新する場合には今計画の特徴を明確にするため異なる部分を募集要項に記載した方が良いように思った。結果公表は丁寧に行われており、意見も取り入れ、内容も修正している点は評価する。

○会長　　　　　　　では評価にうつる。審議会としての評価は「Ｂ」とするが意見はあるか。→評価「Ｂ」で決定。Ａ、Ｅ評価となったものは必ず事務局から担当課にその旨を伝えていただきたい。

○会長　　　　　　　続いてNo.2「宝塚市自転車の安全利用に関する条例の一部改正（案）」について、各委員から意見を伺う。

○委員　　　　　　　評価Ｅ。ここに書かれているものが存在するのか。パブリック・コメントで出た意見でこの条例が成り立っている（救われている）ようである。行政より意見を出した市民の知識の方が上をいっている。

○委員　　　　　　　評価Ｂ。市民からいただいた意見をきっちり受けとめている。

○委員　　　　　　　評価Ｃ。保険の加入義務を削除されたことについては評価できない。

　　　　　　　　　　安全性（自転車利用者の保護）に配慮すべき、また、県条例に規定があるからと言って、市条例から規定を省略するのはどうか。

○委員　　　　　　　評価Ｂ。広報のやり方を上手くすることが大切である。

○委員　　　　　　　評価Ｂ。市民からの「県条例と重複したら問題はあるか」という質問に対して、市の回答として「原案のとおりとし、県条例に明記されている」となっている。しかし、大事なことだから県条例と重複したとしても市条例としてこの内容は規定して欲しいということだと思うので、理由として少し弱い。

○委員　　　　　　　評価Ｂ。資料はシンプルでわかりやすい。キャッチコピー「着用

しよう、させよう」という表現は市民協働という観点からすると良

くないのではないか。県と市の条例の重複については省くべきでは

なく、規定すべきではないか。

○委員　　　　　　　「させよう」というのは解釈に違いがでる。行政がさせようとするのではなく、市民のなかで親が着用しよう、子どもに着用させようと解釈した。

○委員　　　　　　　条例は重複して書けばよかったのに。上位の条例に抵触しなければ規定が重複しても法令上はよいと思う。県にも確認しているかとは思うが。個別評価シートの項目で、基本方針の決定について、議会ではなく市長決定になっている。そこは市議会では？

○会長　　　　　　　条例としての優位性は県にはあると思うが、それでは杓子定規すぎるのではないか。やはり市条例に規定があった方が良かったのではないか。

○会長　　　　　　　評価Ｂ。道路交通法、県条例、市条例と3つの法体系があるがそれをもっとわかりやすく記載したらいいのではないか。

○会長　　　　　　　では評価にうつる。審議会としての評価は「Ｂ」とするが意見はあるか。→評価「Ｂ」で決定。改善の余地はある。

○会長　　　　　　　続いてNo.3「宝塚市自転車ネットワーク計画（案）」について、各委員から意見を伺う。

○委員　　　　　　　評価Ｅ。よくわからなかった。パブコメの意見が０というのは、内容そのものが市民にわかってもらえなかったのではないか。道路行政を優先的に考えるべきである。

○委員　　　　　　　評価Ａ。概要版・写真・図面と続いて学識経験者の意見も聞いてあって、今までになくよく揃っている。

○委員　　　　　　　評価Ｄ。地図が細かくてわかりづらい。若い人ばかりが見るものではない。これでは意見が０件ということもわかる。資料が見づらく、関心がわかないのではないか。

○委員　　　　　　　評価Ｅ。意見が０件なのは、そもそもの曖昧な書き方に問題があるのではないか。これだけの情報量をまとめられているのは評価できる。

○委員　　　　　　　評価Ｂ。概要版は見やすいが、地図はとても見にくい。用語集というものが付いているが、それぞれ注釈の印をつけるなど工夫をしてほしい。

○委員　　　　　　　評価Ｃ。意見が０件ということは大きな問題である。資料が専門的すぎる。キャッチコピーが「目指す」ではなく「造ります」の方がよいのではないか。曖昧な表現を用いれば、市民も意見をしようと思わない。

○委員　　　　　　　評価Ｃ。概要版の形式は整っているが、地図は小さくて見づらい。概要版は、本編の縮小版のように思える。

○会長　　　　　　　評価Ｃ。本編を縮小しただけである。コメントがほしいポイントや意見を求めるところは強調する等、募集要項も「（意見を）書いてみようか」と思えるものであるべき。ネットワークの重点的な考え方をもっと鮮明にしてほしい。パブコメの意見が０件というのは大きな問題である。全国的な取り組みなのに、進歩していない。

○会長　　　　　　　では評価にうつる。審議会としての評価は「Ｃ」とするが意見はあるか。→評価「Ｃ」で決定。

○会長　　　　　　　続いてNo.4「宝塚市生産緑地地区の区域の規模に関する条件を定める条例（案）」について、各委員から意見を伺う。

○委員　　　　　　　評価Ａ→Ｃ。・・・

○委員　　　　　　　評価Ｃ。「ご意見いただきありがとうございます」はどこの事を指しているのか。わかりづらい。

○委員　　　　　　　評価Ｃ。一方的な市役所の条例改正に見える。市民に見てもらおうと思って作ったのか。

○委員　　　　　　　評価Ａ→Ｃに変更。パブコメとしてはこれくらいシンプルな方が意見を出し易いのではないか。意見に対する回答もできている。

○委員　　　　　　　評価Ｂ。最終に「農地所有者の意向」がいきなり入っていた。意見募集時点ではなかったのになぜ入っているのか。

○委員　　　　　　　評価Ｂ。非常にシンプルな資料。新旧の対照表をつけてもらいたい。もう少し市民に対して意見を出しやすい提案のしくみを考えてほしい。

○委員　　　　　　　評価Ｃ。募集要項の中で市民の心に打たれるような書き方をしてほしい。条例なので表示内容が堅い。この条例は１ケ条で、500→300に変えただけなので、新旧対照表は不要ということであったと思うが、比較はしたい。地図で生産緑地がどこに、どれだけがあるのか表示すればもっとわかり易かった。

○会長　　　　　　　評価Ｂ。シンプルで見やすいが新旧対照表はつけてほしい。

○会長　　　　　　　では評価にうつる。審議会としての評価は「Ｂ」とするが意見はあるか。→評価「Ｂ」で決定。→後程評価が変わり「Ｃ」に変更。

　　　　　　　　　　本日の議事は終了したが今後もこのように進めていく。何か総合的に意見等あればお願いする。

○委員　　　　　　　No.4について、策定の経過などこれほどわかりにくいのはなぜか。

○事務局　　　　　　該当ページについて説明。結果公表にも該当箇所がわかるように入れるなど担当課には伝える。

○会長　　　　　　　それでは本日を終えて感想をお願いする。

○委員　　　　　　　道路行政・構想についてご意見。行政が出す文書について定型的なものがあってもいいのではないか。

○委員　　　　　　　同じ資料を見ているのに各委員の着眼点の違いからとても勉強に

なる。

○委員　　　　　　　「資料が分厚い＝わかりやすい」ではない。シンプルにわかりやすく伝えることができるのであれば１枚でもいい。縦割りではなく全体をまとめる部署があればもっとわかりやすくなるのではないか。（横断的な部署があればいいのではないか。）

○委員　　　　　　　今までのパブコメの委員の取り組みがあったからこそ今のパブコメが出来ている。第６次総合計画をするうえで、ベースの話を活かすような政策作りができればいいと思う。

○委員　　　　　　　もっと多くの市民の方に資料を見てもらえるように機会を増やすような啓発を行うようにして欲しい。資料を読む機会が増えたら、パブリック・コメントももっと多く出てくると思う。

○委員　　　　　　　資料の多さに驚いている。企業では多くて３ページ。資料作りに工夫をして欲しい。

　　　　　　　今度第６次総合計画を行ううえで、旧来、協働・エイジフレンドリーシティということを（掲げて）やっているが、それは当たり前。パブコメでも市民の意見を活性化できるようにしていきたい。「パブコメのまち　宝塚」となれるようにしていきたい。

○委員　　　　　　　パブコメをするうえでは計画が多い。総合計画など全体の枠組みが分かれば良いのではと思う。

○会長　　　　　　　長年やってきて良くなってきているが、まだまだ文書が堅い・市民に読んでもらおうという意識はまだまだ低い。専門性に特化することが仕事ではない。行政言語を市民言語に書き換えてほしい。そういった研修を行い、能力を上げてほしい。

　　　　　　　　　　協働のまちであれば、何もかも行政責任で考えることもどうか。市民側の責任も明確にすべきではないか。すべての政策は複合的効果を持つ。パブリック・コメントではその複合性に対する配慮や記述が問われる。

○会長　　　　　　　残りの案件は次回の審議会で引き続き評価していく。厳しい意見を今後もお願いする。事務局より何か連絡事項があればお願いする。

○事務局　　　　　　本日渡した資料については次回以降もお持ちいただくようお願いする。

○会長　　　　　　　次回の審議会は１０/２９（火）に、NO.5～8について審議していく。

　　　　　　　　　　以上で本日の審議会を終了する。